

授業科目	航空産業論				単位	2		
履修	選択	関連資格			ナンバリング	TO31107J		
開講年次	2年	開講時期	後期	該当DP	DP1-1 DP1-3 DP1-4 DP2-1 DP2-2 DP4-1 DP4-2			
担当教員	宮原 英利							
授業概要	<p>旅行の交通手段として航空は重要な位置をしめ、とりわけ日本では海外旅行のほとんどは航空機利用であり、観光と航空ビジネスの関係を知ることは重要である。旅行業と航空業の関係のみならず、宿泊や観光地との関係でも、航空ビジネスは重要な関わりを持つ。</p> <p>このように、航空ビジネスを抜きにしては観光を語れないが、この講義では、航空産業の仕組み、航空ビジネスの役割、現状や課題を知り、観光との関わりを学ぶ。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>1 航空業界の現状と課題を理解できる。</p> <p>2 航空業界の現在の取組みを理解できる。</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	60	0	40	0	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)	10		5				15	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)	10		5				15	
知識・理解 (DP1-4)	10		5				15	
思考・判断 (DP2-1)	10		10				20	
思考・判断 (DP2-2)	10		5				15	
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)	5		5				10	
態度 (DP4-2)	5		5				10	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<p>1 航空業界の現状と課題を理解できる。</p> <p>2 航空業界の現在の取組みを理解できる。</p>				<p>1 航空業界の現状を理解できる。</p> <p>2 航空業界の現在の取組みのうちの7割程度を理解できる。</p>				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション			講義		復習		30

2	航空輸送の歴史	講義	当該部分の予習復習	45
3	国際航空機関、及び国際航空政策	講義	当該部分の予習復習	45
4	日本の空港の現状と課題	講義	当該部分の予習復習	45
5	航空運送業の特徴	講義	当該部分の予習、復習	45
6	航空旅客需要の特徴	講義	当該部分の予習、復習	45
7	アライアンス(航空連合)	講義	当該部分の予習、復習	45
8	航空会社のネットワーク戦略	講義	当該部分の予習、復習	45
9	プライシングとレベニューマネジメント	講義	当該部分の予習、復習	45
10	マイレージとデータベースマーケティング	講義	当該部分の予習、復習	45
11	CS 顧客満足	講義	当該部分の予習、復習	45
12	航空会社のブランド戦略	講義	当該部分の予習、復習	45
13	LCC(格安航空会社)の台頭と特徴	講義	当該部分の予習、復習	45
14	既存大手航空会社の対LCC対策	講義	当該部分の予習、復習	45
15	航空産業まとめ	講義	全体の復習	45
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				

27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	英語を使うことが多いので、英検準2級程度の英語力を有することが望ましい。			
テキスト	航空産業入門 株式会社 ANA総合研究所 東洋経済新報社			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	「航空事業論」井上泰日子、日本評論社 「現代の航空輸送事業」三田譲 同友館			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	人文、社会科学系の学部の学生が学修する航空業・ビジネスは、近年「運輸業」ではなく「サービス業」の範疇とされている。この特徴的業種のビジネスの現状と課題をしっかりと学ぶこと。それには、関連する新聞記事やテレビ番組などを日頃から見ておくことが重要。			
達成度評価に関するコメント	知識よりも理解度を重視する。 試験及びレポートについては授業の中で指示する。			